

授業科目	在宅看護概論		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	非常勤講師 (在宅看護領域臨床実務経験有) 専任教員 (在宅看護領域臨床実務経験有)					
科目目標	1. 地域看護における在宅看護の位置づけを理解する。 2. 在宅看護の役割と機能について理解する。 3. 在宅療養者とその家族について理解する。 4. 家族を理解するための諸理論を生かした家族看護のための視点について理解する。 5. 在宅看護に関する諸制度や関連機関について理解する。 6. 在宅看護における倫理的課題とその対応について考えることができる。 7. 在宅看護の今後の課題について考えることができる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
A	1	2	在宅看護の目的と特徴	講義	非常勤講師	
	2	2	在宅看護における看護師の役割と機能	講義		
	3	2	在宅看護の対象者の特徴	講義		
	4	2	在宅看護の対象者としての家族	講義		
	5	2	システム理論を用いた家族アセスメント	講義		
B	6	2	在宅看護のしくみ	講義	専任教員	
	7	2	介護保険制度と在宅ケアにおけるケアマネジメント	講義		
	8	2	訪問看護の機能と役割	講義		
	9	2	在宅看護における権利保障	講義		
	10	2	地域包括ケアシステムについて	講義		
	11	2	地域の理解と社会資源の活用①	グループワーク		
	12	2	地域の理解と社会資源の活用②	グループワーク		
	13	2	地域連携・協働を踏まえた看護の機能	グループ発表		
	14	2	在宅看護の展望と今後の課題	講義		
	15	2	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 100点 (A35点、B65点)					
評価基準	60点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 角田直枝：よくわかる在宅看護 学研					

授業科目	在宅看護方法 I		単位数	2	時間数	45
担当講師 (実務経験)	看護師 (在宅看護専門看護師) 看護師 (訪問看護ステーション実務) 非常勤講師					
科目目標	1. 在宅療養者の日常生活援助方法について理解できる。 2. 在宅における医療管理を必要とする看護を理解できる。 3. 在宅療養に向けての退院支援プロセスが理解できる。 4. 関係機関との連携や訪問時のマナーについて理解できる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
A	1	2	在宅看護における日常生活援助技術 ・在宅で看護を展開するにあたって ・在宅療養者のフィジカルアセスメント ・安全で楽しい食事 <u>嚥下体操</u>	講義 演習	訪問看護 ステーション 看護師	
	2	2	・快適でやさしい排泄ケア <u>テープ止め紙おむつの交換・ ペットボトルでのシャワーボトルの作成と検証</u> <u>陰部・殿部洗浄</u>			
	3	2	・安全で安楽な移乗・移送 <u>バスタオルなどを用いた上方への移動</u> ・合理的で気持ちの良い清潔ケア <u>電子レンジでのホットタオルの作成と検証</u> <u>いつでもできる足浴と手浴</u>			
	4	2	<u>簡易ケリーパットの作成と洗髪</u> ・過ごしやすい環境 在宅看護における安全性の確保 ・認知症高齢者への支援 ・安全な与薬			
	5	2	訪問看護の役割と機能 ・訪問看護ステーションの管理と運営 在宅看護における指導・相談 ・療養者と家族の自立生活にむけての指導の方法			
	6	2	在宅看護における日常生活援助技術演習 在宅における援助技術演習 福祉用具体験 ・各種車椅子 ・各種車椅子用クッション、体圧測定器			
	7	2	・各種マットレス体験 各種移乗機器体験			

B	8	2	在宅療養に向けての退院調整のプロセス ・退院調整が求められる背景 ・地域連携クリティカルパス ・退院調整のプロセス	講義 演習	在宅看護 専門看護師
	9	2	退院調整の看護の役割 ・退院調整のシステムの構築 ・看護師が行う退院調整の特徴と意義		
	10	2	在宅医療部の相談業務・連絡調整での留意点 必要な関係機関との連絡調整の技術 信頼関係の形成・意思決定への支援 ・訪問看護師の態度(訪問看護時のマナー)		
	11	2	・信頼関係の形成・意思決定への支援について ・面接技法が理解できる		
C	12	2	医療・処置に伴う援助技術	講義	非常勤講師
	13	2	・経管栄養の管理(経鼻・胃ろう)		
	14	2	・膀胱留置カテーテル管理、膀胱洗浄		
	15	2	・在宅人工呼吸療法		
	16	2	・気管カニューレの管理、吸引		
	17	2	・在宅酸素療法(慢性閉塞性肺疾患) 日常生活支援と指導、肺理学療法		
	18	2	医療の継続と緊急時の対応		
	19	2	・中心静脈栄養管理 機材・器具の取り扱い、薬剤管理		
	20	2	・在宅での感染予防と感染症の療養者への看護		
	21	2	医療廃棄物の取り扱いについて		
	22	2	・在宅ターミナル期の療養者への援助		
	23	1	終講試験	終講試験	
評価方法	筆記試験 100点 (A30点 B20点 C50点)				
評価基準	60点以上で合格				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 角田直枝:よくわかる在宅看護 学研				

授業科目	在宅看護方法Ⅱ		単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)	専任教員 (在宅看護領域実務経験有)					
科目目標	1. 在宅看護における看護過程の特徴が理解できる。 2. 事例を通して、在宅での看護過程の展開方法を習得する。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	在宅看護過程とは 在宅看護過程の構成要素	講義	専任教員	
	2	2	在宅看護の実際 訪問時のアセスメントの視点 在宅看護介入時期別の特徴	講義		
	3	2	事例展開 事例：在宅移行期の看護 (脳梗塞後、老々介護のケース)	グループワーク		
	4	2				
	5	2				
	6	2	事例展開の発表とまとめ	グループ発表		
	7	2		講義		
	8	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 50点 演習課題 50点					
評価基準	60点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 角田直枝：よくわかる在宅看護 学研					